

第2章 吉備線沿線の現状と課題

①人口分布

- ・吉備線の駅周辺だけでなく地域全体に広く人口が分散。
- ・沿線の高齢化率が20%を超えている（3、4ページ参照）。
- ・将来の人口は今後減少していくことが予想されている（3、4ページ参照）。

⇒沿線に人口を集約させたまちの形成が必要。



②土地利用

- ・岡山市、総社市の両市において、吉備線沿線に市街化区域、市街化調整区域の両方があり、市街化調整区域においても人口増加のエリアが見られる。

⇒土地利用の適正な規制と誘導が必要。



③施設立地

- ・施設が分散して立地。一般国道180号沿道だけでなく周辺部にも業務機能が分散している。

⇒駅等の拠点周辺への施設誘導が必要。



④観光資源

- ・岡山市、総社市を代表する観光エリアである吉備路は観光施設が点在しているがアクセスがしにくい。

⇒観光拠点への交通アクセスの充実をさせ、観光資源を活かすことが必要。



⑤交通網・サービス

＜吉備線沿線の公共交通ネットワーク（鉄道・バス）＞

- ・吉備線は岡山駅から総社駅まで運行しており、岡山市の一宮・高松方面、総社市の総社-岡山都市軸の基幹的な路線として機能している。
- ・吉備線と並行したバス路線があるが、吉備線までの便数が少ない。

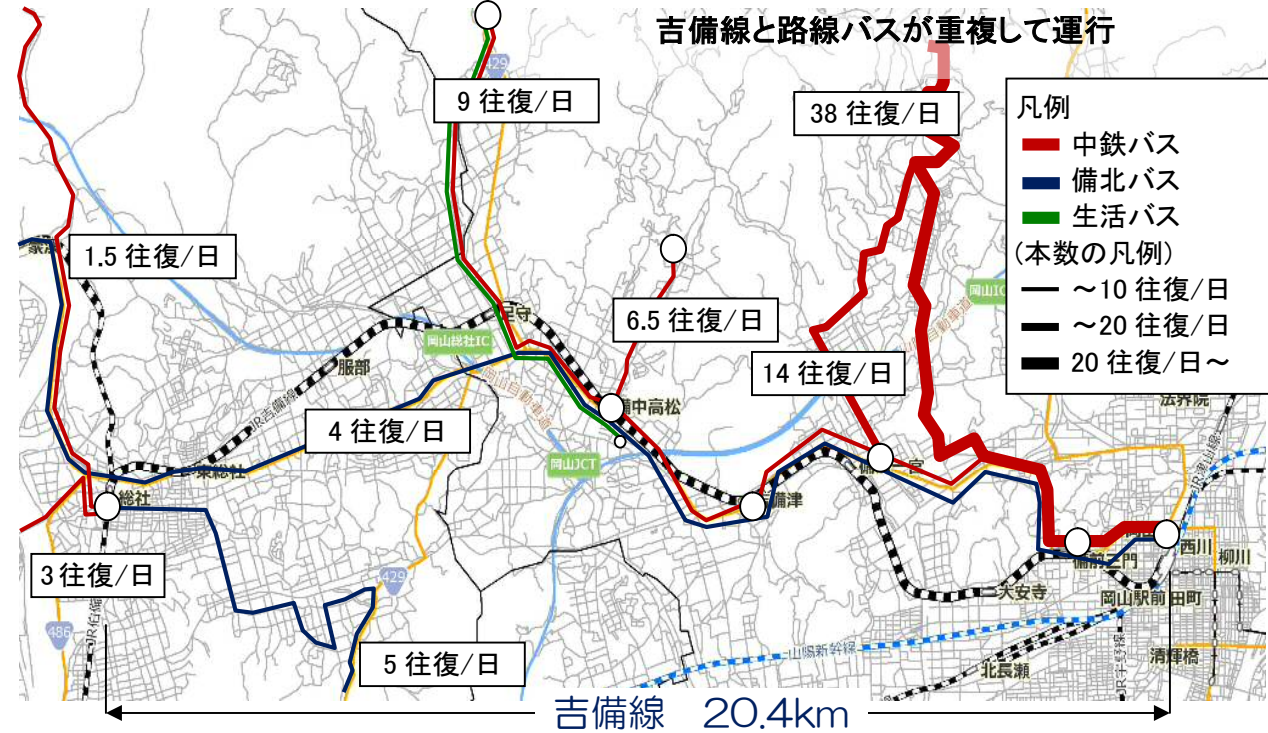
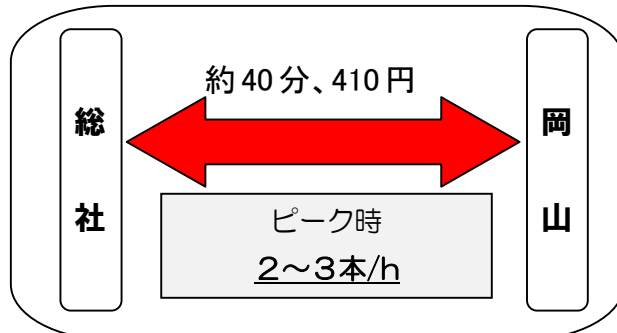


図 吉備線沿線の公共交通ネットワーク

＜吉備線の運行状況＞

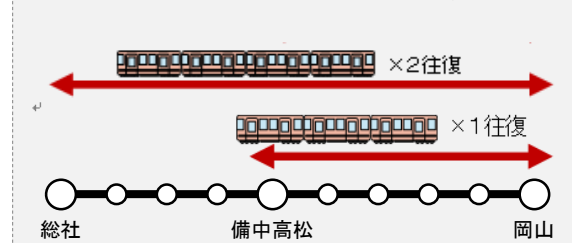
運行本数（1日あたり）

路線	上り	下り
吉備線	総社→岡山 29本	総社←岡山 28本
	備中高松→岡山 4本	備中高松←岡山 4本



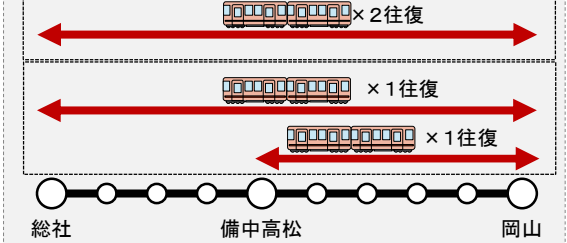
■ピーク時

- ・岡山～総社間は2往復/時
- ・岡山～備中高松間は1往復/時
- ・ピーク時の需要に合わせて3もしくは4両編成で運行
- ・1両あたりの定員を120名とした場合、1,320名を輸送可能



■オフピーク時

- ・岡山～総社間で2往復/時 または、岡山～総社間で1往復/時及び、岡山～備中高松間で1往復/時
- ・全線において2両編成で運行
- ・1両あたりの定員を120名とした場合、480名を輸送可能



＜各駅の整備状況・乗客数＞

- ・吉備線の乗客数は1日約 10,500 人となっており、岡山駅のほか、備中高松駅での利用が多い。
- ・岡山駅や総社駅を除き中間駅ではバリアフリー化されていない。バス交通が乗入れるための駅前広場が整備されておらず、乗換環境の整備が不十分である。

表 駅別の乗車数・整備状況

	総社市			岡山市						合計	
	総社駅	東総社駅	服部駅	足守駅	備中高松駅	吉備津駅	備前一宮駅	大安寺駅	備前三門駅		岡山駅
乗客数(人/日) (平成24年度)	895	630	819	470	1,275	488	759	335	797	4,016	10,484
駐車スペース(P&R)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	-
駐輪スペース(C&R)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
送迎スペース(K&R)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	-
バリアフリー化 (高齢者対応)	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	-
駅前広場 (バス乗り場)	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	-

※駅別の乗客数(人/日)については平成24年10月24日にJR西日本で実施した駅別乗車人員を掲載。

＜吉備線各駅の乗車人員の推移（平成4年～平成24年）＞

- ・各駅の乗車人員は、直近5年ほどは増加傾向にあるが、平成8年前後をピークとして減少傾向にある。
- ・今後人口減少や高齢化により、さらに利用者が減少することが懸念される。

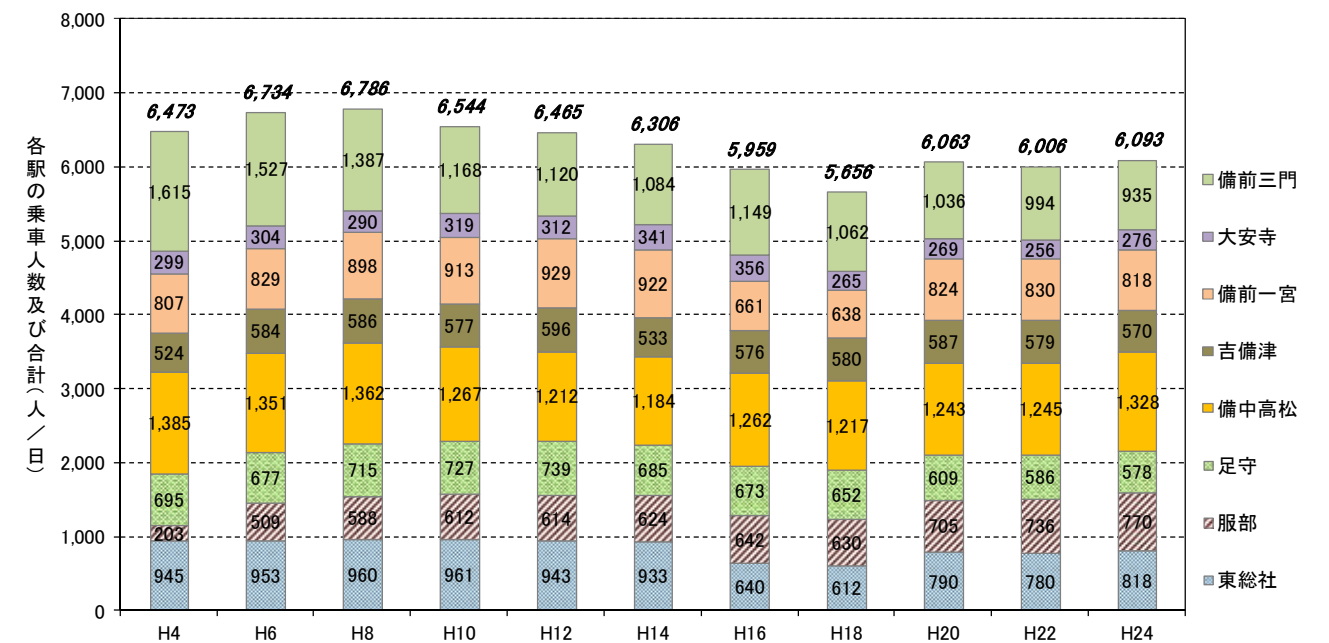


図 駅別の乗車人員の推移

※JR西日本提供資料を参考。年間乗車人数から一日あたり平均値を算出し掲載。
※岡山、総社については、他路線の乗車人員を含むため未掲載

⇒人口減少や高齢化による利用者減少への対応が必要。

⑥交通実態

<吉備線沿線の道路交通状況>

- ・一般国道 180 号沿線や拠点周辺における道路混雑が発生している。
- ・道路混雑がバス等公共交通の定時性や速達性低下の要因となっている。

⇒過度な自動車依存から吉備線を基幹とした公共交通への転換が必要。

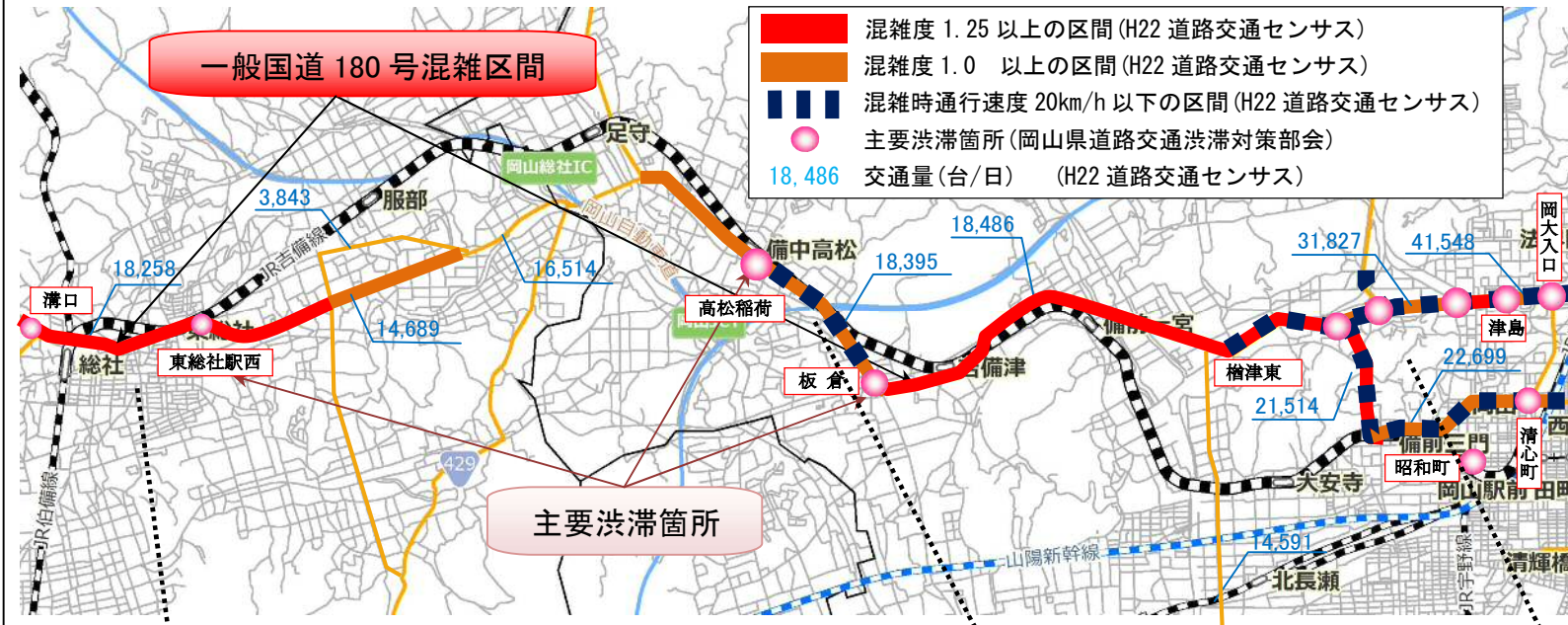


図 吉備線沿線の道路交通状況

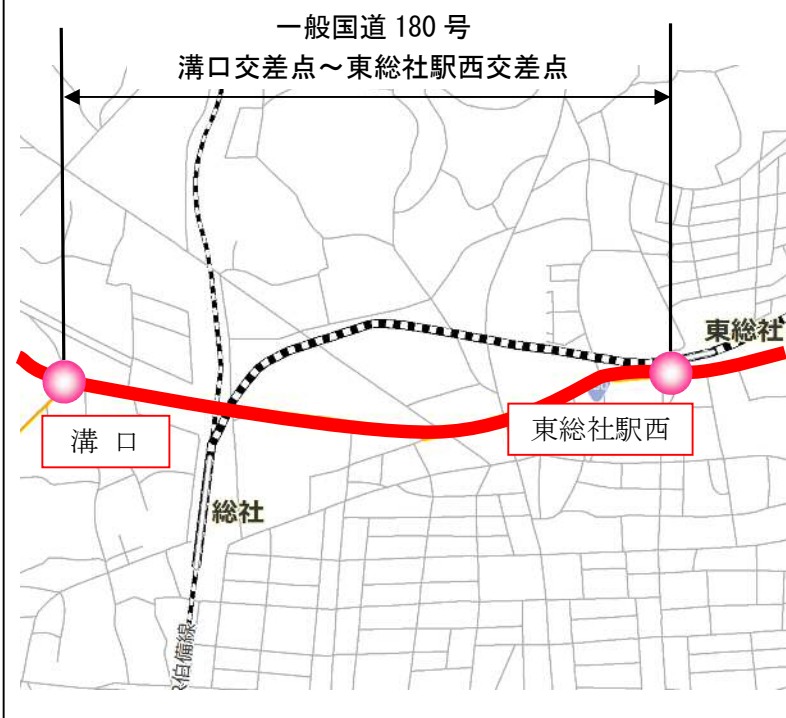
<主要道路との交差箇所>

- ・今後整備予定の主要国道や都市計画道路との交差があり、鉄道のままでは立体交差が必要となる。



図 主要道路との交差箇所

<総社周辺のエリア>



<備中高松駅周辺のエリア>



<備前三門駅周辺のエリア>



<岡山・総社連携軸の現状を踏まえた沿線のまちづくりの方向性>

生活面の課題

①人口分布

⇒沿線に人口を集約させたまちの形成が必要。

②土地利用

⇒土地利用の適正な規制と誘導が必要。

③施設立地

⇒駅等の拠点周辺への施設誘導が必要。

観光面の課題

④観光資源

⇒観光拠点への交通アクセスの充実をさせ、観光資源を活かすことが必要。

交通面の課題

⑤交通網・サービス

⇒人口減少や高齢化による利用者減少への対応が必要。

⑥交通実態

⇒過度な自動車依存から吉備線を基幹とした公共交通への転換が必要。

上位計画との関連

岡山市都市計画マスタープラン

- 一宮、高松、足守地区を生活拠点と位置付け、吉備線沿線における地域拠点としての生活機能の維持、向上を図っていくとともに、地域間を結ぶための公共交通のサービスの向上を図る。
- 古代吉備の昔から積み重ねられてきた貴重な歴史・文化遺産の保存・継承と積極的な活用を図る。

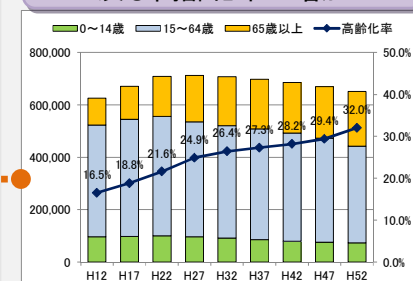
岡山市都市交通戦略

- 一宮・高松方面の主要な公共交通軸である吉備線について、新駅設置や高頻度運行に対応した鉄道のLRT化を視野に入れた公共交通サービスの向上を図る。

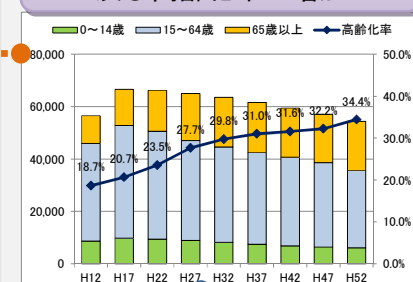
総社市都市計画マスタープラン

- 魅力ある交流機能を持つ自然と調和のとれたアメニティのまちを目指す。
- JR服部駅におけるパークアンドライド、サイクルアンドライドを踏まえた交通結節点機能の強化、全市における路線バスの増発、福祉や環境に配慮した車両の導入などを目指す。
- 歴史文化を守り新しい吉備文化を発信する交流のまちを目指す。

岡山市の将来人口の減少及び高齢化率の増加



総社市の将来人口の減少及び高齢化率の増加



将来の課題との関連

沿線の居住、都市機能の集約化を図る

- 自家用車に過度に依存しない交通体系を構築していくために、駅やバス停沿線への居住地や施設の集約化を目指す。

観光資源へのアクセス強化を図る

- 岡山・総社連携軸に点在する観光資源へのアクセスを強化し、岡山・総社両市の代表的な観光資源である吉備路の観光地としての魅力の維持、活性化を目指す。

公共交通の機能強化を図る

- 岡山・総社連携軸の基幹公共交通である吉備線を活用した公共交通の機能強化を目指す。

コンパクトシティの実現を目指す